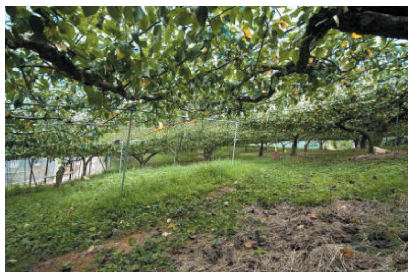


チュウゴクナシジラミの特徴と国内での発生について

(本文 24 ページ参照)



①チュウゴクナシジラミの発生園
多数の樹上の黄化葉、落葉が確認できる
(2011 年 8 月 10 日、佐賀県)



②チュウゴクナシジラミ♀成虫 (夏型)



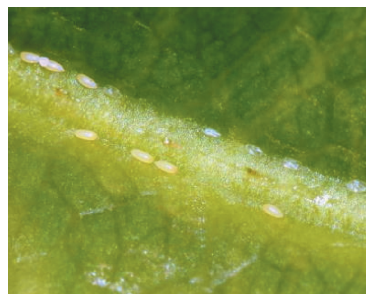
③チュウゴクナシジラミ 5 齢幼虫 (夏型)



④チュウゴクナシジラミ 5 齢幼虫 (冬型)



⑤葉上のチュウゴクナシジラミ幼虫群集とワックス (白色部)、甘露に発生したすす病 (褐色部)



⑥主脈上のチュウゴクナシジラミ卵



⑦ナシジラミ♀成虫 (初夏の新成虫)



⑧ナシジラミ 5 齢幼虫の集団

井上広光氏原図

ホウレンソウケナガコナダニ簡易モニタリングトラップの仕組みと圃場での防除判断技術

(本文 29 ページ参照)



①ホウレンソウケナガコナダニ
(*Tyrophagus similis*)



②ホウレンソウケナガコナダニによる被害株



④誘引シートに集まるホウレンソウケナガコナダニ

ホウレンソウのコナダニの被害程度基準と被害度



被害程度基準

A: 被害なしの株数

B: コナダニによる奇形葉2枚以内の株数

C: 奇形葉3～4枚で褐変なしの株数

D: 奇形葉の数に関わらず中心部が褐変し、芯止まりの株数

被害度 = $(D \times 5 + C \times 3 + B \times 0.5 + A \times 0) / \text{調査株数} \times 5 \times 100$

③ホウレンソウのコナダニの被害程度基準と被害度



⑤「コナダニ見張番」の設置状況

本田善之氏原図

重要線虫種群 *Xiphinema americanum*-group の日本産個体群の特徴

(本文 40 ページ参照)



① *Xiphinema brevicolle* (コーヒーオオハリセンチュウ)



② *Xiphinema* sp. (未記載種)

酒井啓充氏原図

フタスジヒメハムシの発生動態と子実被害

(本文 48 ページ参照)



①ダイズの莢を加害する
フタスジヒメハムシ成虫



②成虫の莢加害にともなうダイズ被害粒の発生
左: 黒斑粒, 右: 腐敗粒

加進丈二氏原図